

## Transkrip naskah drama *Watashi ga Ren-Ai Dekinai Riyuu* episode 1

一同 : 乾杯!  
男性 : 盛り上がっていきましょうね!  
一同 : イエーイ!

女性 : 今日の会議資料出しといてくれる?  
男性 : はい!  
女性 : ハイ! マーク。  
マーク : ナイストゥミートユー。  
女性 : ナイストゥミートユー。

女性 : まっ過去引きずっててもね。  
女性 : 大事な今は今だよ。  
女性 : ああ。っていうかさ この後何食べに行く?  
女性 : イタリアン!  
女性 : ああ。じゃあさ あの恵比寿のイタリアン行こうよ。  
女性 : あのイケメンシェフいるところ!

藤井 : そりゃあさ したくないわけじゃないんだよ。でも何か面倒くさいんだ  
: よね。恋愛とかって。  
高橋 : めんどくさい?  
藤井 : うん。何かさ好きだの嫌いだの。付き合うの別れたの。そういうの今は  
: いいやって感じ。  
高橋 : そんなもんなんすかね?  
藤井 : うん。っていうか そういう高橋はどうなんだ? 彼女いんのかよ?  
高橋 : まあ 一応。  
藤井 : えーっ!? マジで? 偉いな。尊敬するわ。  
田村 : おう、<sup>1</sup>藤井!  
藤井 : おう!  
田村 : 相変わらず いいケツ!  
藤井 : タムさんこそ いつにも増やしていいケツ!  
田村 : ああー。ケツ!ケツ!  
藤井・田村 : イエイ!  
田村 : おう!  
高橋 : ああー。  
: いや。恋愛どうこうってうか 藤井さんって女捨ててますよね。  
藤井 : はあ!? 何で?  
高橋 : いや。だって男にケツを触られてつねり返しますか? 普通。  
: そんなんだから いつまでたっても男ができないんですよ!  
: ああ。ヤバい。  
藤井 : いや。よく分かった。今度からはケツではなく。  
高橋 : ああっ。  
藤井 : 前にするよ。フフフ。  
: ああー。腹減った。あっ。ねえ、<sup>3</sup> タムさん。この後飯行きませんか?  
田村 : 駄目。今日だけは駄目。今日うちの結婚記念日です。早く帰らないと  
: かみさんうるさいんだよ。

藤井 : ふーん。じゃあ 高橋は?  
高橋 : ああー。俺彼女とデートなんすよ。すみません。  
藤井 : あっ そう。

男性 : 渋谷? うん。分かった。うん。うん 大丈夫。  
咲 : ハァー。  
男性 : はいはい。じゃあね。  
咲 : 彼女?  
男性 : えっ? いや。違うよ。あの。友達大学の。  
咲 : ああー。はいはい。  
男性 : あっ。帰る? あっ。じゃあ ホテル代割り勘。  
咲 : フゥー。あり得ない。  
 : ハァー。次 次。

男性 : よし! 次行こう!  
男性 : おっ! 次行くぞ!  
一同 : 行きましょ。はーい!  
真子 : すみません、<sup>15</sup> 私終電なんで失礼します。  
木崎 : えっ?半沢さん二次会行かないの?  
真子 : はい。親がうるさいので。  
男性 : おい! 木崎! 行くぞ!  
木崎 : はい。  
ゆり : 行きましょ木崎さん。  
男性 : 早くしろ!  
ゆり : 今度は真子もね。じゃ。  
木崎 : お疲れ。  
真子 : お疲れさまでした。

[TEL]

藤井 : もしもし、<sup>19</sup> 母さん? 何か用?

[TEL]母 : 何よ。用がなきゃかけちゃいけないの? どうせ一人なんでしょ?  
 : 嫌あねえ。いつ電話しても一人で。

藤井 : 悪かったですね。

[TEL]母 : そうそう。あんたもうすぐ誕生日でしょ? 時期に30なんだから  
 : いいかげん結婚とか真面目に考えなさいよ。

藤井 : ああー。あのさ、<sup>22</sup> 今ご飯中だからさ。またかけるわ。じゃあね。

藤井 : ただいま。  
 : お帰りって。

[TEL] (メールの着信音)

藤井 : ああー。あしたか。  
 : よいしょ。ハァー。  
 : ハァー。もうこんな時期か。  
 : ハァー。うーん。ヤッバいなあ。

スタッフ : 半井 堅さん 間もなく入られます。よろしくお願ひします。[マイク]

藤井 : あっ。でも全然いけますよ。

美鈴 : お疲れ!

一同 : お疲れさまです。

美鈴 : どうも。ねえ、<sup>4</sup>今日お宅の社長来てる?  
藤井 : あっ。さっきその辺にいましたけど。  
美鈴 : ホント? あっ。この子うちの新人。  
ルミ : どうも。丸山ルミです。よろしくお願ひします。  
藤井 : よろしく。  
高橋・田村 : カワイイ!  
美鈴 : よろしくね。タムさん。  
拓海 : 藤井。  
田村 : ナイストゥミートユー。  
藤井 : あっ 社長。美鈴さんが。  
拓海 : ああ。来てた?  
美鈴 : うん。  
 : 今ちょっと時間あるかな? 打ち合わせいたいんだけど。  
拓海 : いいよ。  
 : じゃあ これよろしく。  
藤井 : はい。  
ルミ : あの、<sup>24</sup>あの二人ってどういう関係なんですか? 何か訳ありって感じ  
 : しません?  
高橋 : 訳ありも何もね。  
藤井 : 夫婦だよ。正真正銘の。  
ルミ : えっ!? 美鈴さん結婚してるんですか!? 意外。何か仕事一筋って  
 : 感じだったから。  
藤井 : まあ仕事上のパートナーでもあるけどね。  
田村 : お宅の会社は打ちの会社の大事な発注元だかんね。  
ルミ : ああー。なるほどね。社長さんが美鈴さんの旦那さんだからちっちゃい  
 : 会社でもこんな大きな現場に呼んでもらえるんですね。納得。  
ひかり : お疲れさまです。  
藤井・ルミ : お疲れさまです。  
ひかり : 今度のハロウインのイベント私が担当することになったんでよろしく。  
藤井 : おおー。よろしく。  
高橋 : お願いします。  
田村 : さすがひかりちゃん。美鈴さんの右腕。  
ひかり : あっ。あのう、<sup>32</sup>藤井さん。ちょっといいですか?  
藤井 : うん。  
スタッフ : すいません、<sup>16</sup>照明さん。ちょっと!  
藤井 : はい!ちょっと行ってきます。  
田村 : うん。  
藤井 : ごめん。  
ひかり : あっ。はい。  
ルミ : あの、<sup>25</sup>長谷川さんってどの人ですか?  
高橋 : 長谷川?  
田村 : 長谷川 優のこと?  
ルミ : はい。アメリカ帰りの人がいるって美鈴さんが。  
田村 : 帰ってくるの? あいつ。  
ルミ : えっ?向こうでライティングの修業してきたって。  
ひかり : ルミちゃん。  
ルミ : あっ。すいません。  
田村 : いつよ? いつ?

ひかり : 何か2~3日中って聞いてますけど。  
高橋 : えっ? 誰っすか? 長谷川って。  
田村 : 新友だよ。藤井の。  
高橋 : 新友?

結花 : っていうかさ 表に堂々と「演劇部」とかって書かないでほしいよね。  
咲 : えっ? いいじゃん演劇部。  
久美子 : いや。ちょっと恥ずかしいよね?  
真弓 : 「演劇部」ってちょっとね。  
咲 : 何だよ?  
久美子 : あっ。でもさ 考えてみればあのころのそのままを仕事にしたのって藤井 : だけだよ?  
女性たち : ああー。  
真弓 : 照明の助かった人でさそのまま引きずり込まれたのにね。  
久美子 : そう そう そう。  
咲 : イベントの照明会社か。ああー。藤井先輩若くて生きのいい : アルバイト君とか紹介してくんないかなあ?  
結花 : あんたねまずは自分の会社で見つけないさいよ! 出版社なんですよ。いい : 男とかいないの?  
咲 : いい男がいたらとっくにいい恋してるって。  
真弓 : いるじゃん 藤井が。ほれ。  
久美子 : うん?  
彩季子 : あーっ!これが伝説の藤井先輩の男役?  
久美子 : 1回ぎりだったんだけど妙に ウケタよね あれ!  
真弓 : あれってさ女子校ならではの ノリだったよね。  
彩季子 : だって藤井先輩は青葉女子みんなの、  
藤井 : ごめん ごめん! 遅くなって。  
久美子 : 来た!  
女性たち : 兄貴ー!  
藤井 : えっ?  
彩季子 : 藤井先輩の男役カッコ良かったんですねえ。  
藤井 : 嫌。それほどでもないんだけどさ。  
真弓 : すっごいモテたんだよ。女子に。  
藤井 : おーい!  
結花 : さすが兄貴!  
女性 : やっぱ女子か。でもカッコイイもんこれ。  
咲 : あっ。そろそろ時間だけどどうする? 二次会行く?  
藤井 : いいね! 行こ 行こ 行こ。  
久美子 : ごめん。うちそろそろ旦那帰ってくるからさ。  
咲 : えーっ? 帰っちゃうの?  
久美子 : ごめんね。  
真弓 : うちも親に子供見てもらってるからさ。  
藤井 : そうか。大変だね。  
彩季子 : 実はこの後彼と待ち合わせしてて。  
藤井 : あー。出た。  
咲 : 出ました。  
女性 : じゃあ お会計する?  
女性 : あっ。しますします。

咲 : 女の友情ハムより薄い。  
藤井 : えっ?  
咲 : 女同士の友情なんてしょせん信用できないってこと。  
藤井 : ああ。  
咲 : 恋をすれば彼氏が一番。結婚すれば旦那が一番。出産すれば子供が  
: 一番。女なんてみんなそんなもんよ。  
藤井 : ふーん。ってあんたも女だよな。  
咲 : どうせ家に帰っても独りぼっちなのは私と藤井先輩だけ。  
藤井 : いや いや いや。一緒にしないでよ そこ。ねえ。  
咲 : 一緒にしょ?  
藤井 : 一緒ですけど。  
咲 : ハァー。何か最近真っ暗な部屋に帰るのが無性にさみしくって。  
藤井 : えー? 意外!咲でもそんなことあるんだね。  
咲 : ねえ<sup>5</sup>。  
藤井 : うん?  
咲 : 一緒に暮らさない?  
藤井 : えっ?  
咲 : ルームシェアしようよ。  
藤井 : ルームシェア?  
咲 : さみしさからは解放される上部屋のランクアップできるし。何より家賃  
: が今よりも格段に節約できる。  
藤井 : ああー!それは助かるかもね。更新泊まってるし。  
咲 : 藤井先輩とだったら高校時代からもよく知ってるし。本音で  
: 付き合えるし何よりも信頼できる。  
: ねっ、<sup>33</sup> 私たち2人ならきつとうまくやっていけると思う。  
藤井 : 咲。  
咲 : あっ。やっぱもう一人入れよう。  
藤井 : はっ!?  
咲 : すいません<sup>17</sup>! これ同じのを下さい。  
: 言ったでしょ? 「女の友情ハムより薄い」って。  
藤井 : ああ ああ。うん、だから?  
咲 : 2人はまずいよ。割れたとき最悪。  
藤井 : いや。たった今さ うちら2人ならうまくやっていけるって。  
咲 : ねえ、<sup>6</sup>知ってる? 南極越冬隊でも女性隊員は奇数にするんだって。  
: 遇数だと割れるから。  
藤井 : あっ そう。  
咲 : 心当たり探してみる。見つかったら電話するんで。  
藤井 : はい。  
  
藤井 : 高っ!  
高橋 : お疲れさまです!  
田村・藤井 : お疲れ。  
高橋 : あっ。美鈴さん手作りの愛妻弁当っすか?  
拓海 : うん?  
高橋 : いいな。  
拓海 : 手作りだけど、愛妻じゃないよ。  
高橋 : えっ?  
拓海 : 俺が自分で作ったの。うちは独立採算制だから。

高橋 : ふーん。独立。  
田村 : でも女の子はそういうのがいいんでしょ? 結婚しても夫婦がそれぞれに  
: 自立してんのが理想の関係って。  
高橋 : いやいや いやいや いや。最近は違うらしいっすよ。結婚したら旦那  
: さんに養ってもらうのが理想らしいっす。  
田村 : ホントかよ?  
藤井 : ふーん。理想の関係ね。  
優 : ふーん。俺は愛妻弁当がいいけどな。  
藤井 : 優!?  
優 : まっ コンビにのおにぎりも悪くないけど。  
拓海 : おう、<sup>2</sup> 長谷川! 帰ってきたか!  
優 : ただ今 帰りました。またお世話になります。  
田村 : おーい、<sup>34</sup> 長谷川!  
優 : タムさん!  
田村 : おかえり。  
拓海 : 新人の高橋。  
高橋 : 新人の高橋です。よろしくお願いします。  
優 : 初めまして。長谷川です。  
: おい、<sup>35</sup> 新友の帰国におかえりは?  
藤井 : 返せ私の。  
優 : 青春?  
藤井 : おにぎり!  
優 : ああ...。  
藤井 : ちょっと。出せ! 出せちょっと!

藤井 : 帰ってくんだったら連絡ぐらいくれればよかったのに。  
優 : 連絡したら花束でも持って迎えに来てくれた?  
藤井 : はあ? 行くわけないじゃん。バッカじゃない。  
優 : だろ? だったら驚かす方が面白いと思ってさ。  
: なあ、<sup>38</sup> 30Cの10mっていうとき。  
藤井 : おい。はいよ 10m。  
優 : おい。サンキュー。でもさ やっぱり向こうはすごいよ。ピンとかさ  
: 初めての俺にもびったり合わせてくんの。  
藤井 : へエー。じゃあ もう少し修業してくればよかったねえ。  
優 : 何だよ? うれしくないのかよ? 1年ぶりに新友が帰ってきたっていう  
: のに。  
藤井 : あっ。全然うれしくないわ。  
優 : チョップ。  
藤井 : 行って!  
優 : ああー! いいですよ じゃあ 俺はね もう1回行って金髪の  
: ジェニファーにじっくり教えてもらってきますよ。  
藤井 : はあー。ジェニファーね。そのジェニファーとやらと一緒に骨うずめて  
: 一生帰ってくんな。  
優 : 痛っ。  
藤井 : ハハッ。  
[TEL] 藤井 : はい。  
[TEL] 咲 藤井 : 見つかりましたよ。3人目の越冬隊員。  
藤井 : はっ?

[TEL]咲 : 半沢 真子。私の2年下の。あっ ほら、<sup>39</sup> チェーホフの。  
藤井 : ああ! チェーホフの真子。

真子 : 木崎さん。資料できました。  
木崎 : おっ。早いね。ありがとう。  
: ごめんね。派遣さんなのに残業させちゃって。家の方時間大丈夫?  
真子 : 大丈夫です。仕事ですから。  
木崎 : そっか。お礼に食事でもと思ってたけどやめといた方がいいね。  
真子 : えっ?  
木崎 : 今度連絡するから番号教えてよ。  
真子 : はい。

咲 : しっかり者なんだけどね。堅過ぎるっていうか真面目過ぎるっていうか?  
藤井 : まあ いいんじゃないの。それが彼女の待ち味なんだし。  
真子 : 藤井先輩! 咲先輩!  
: すいません。ごめんなさい。  
: 咲先輩から電話もらったときホントにうれしくて。  
咲 : 親戚しいのによく許してくれた。ね?  
真子 : 女3人で住むからって何とか説得したんです。  
咲・藤井 : へえー。  
咲 : うわっ。ケーキ屋さんだ。あっ。バースデーケーキだって。  
藤井 : ホントだ。  
真子 : 先輩たちって誕生日いつですか?  
咲 : 私6月。  
藤井 : 私は来週。  
咲・真子 : えっ!?  
藤井 : また一つ年取っちゃうよ。  
真子 : えっ? 誕生日プレゼント何かいいですか?  
藤井 : えっ? 買ってくれんの?  
真子 : あっ。プレゼントっていうか何かおいしい料理?  
藤井 : マジで?  
: まだ?  
真子 : あともう少しです。あともう少し。  
: 海外にいる伯母の家なんです。  
藤井 : へえー。  
咲 : ありがたい。今どきそんなおいしい話ないよ。  
藤井 : でもさ 助かるんだけどホントにいいの?  
真子 : あっ。ここです。  
藤井 : おおー!  
咲 : へえー。  
藤井 : でっか。  
真子 : いいじゃん。  
藤井 : 広そうだね。  
咲 : うん。これは。  
藤井 : うおー。お邪魔しまーす。  
真子 : はいどうぞ。  
咲・藤井 : うわー。  
咲 : お邪魔します。  
藤井 : お邪魔します。うわー。広っ。

咲 : 奥もあるじゃん。  
真子 : こっち居間です。  
藤井 : へえー。居間だって。  
藤井・咲 : うわー。  
咲 : 家具ある。いい色じゃん。  
真子 : サッカーゲーム。  
藤井 : これどうやってやんの?  
真子 : ぼーんってやって。  
 : 中庭で一す。  
咲 : すごいんだけど。  
真子 : こちらがキッチンです。  
藤井 : うわっ。おしゃれ。  
咲 : いっぱい食べれんじゃん。もう。  
真子 : いっぱい作れますね。  
藤井 : 脚伸ばせんじゃん。  
咲 : うわー! 脚。いいね。  
真子 : 部屋は3部屋あるんで。  
藤井 : うわっ。広っ!ここかな?私。  
咲 : えー。  
咲 : ああ。私ここ気に入ったのに。  
真子 : うわー。私もここがいいな。  
咲 : 嘘。  
藤井 : じゃんけんぽい。  
咲 : やった負けた。  
真子 : じゃあここが私の部屋になるであろう。  
藤井 : カワイイじゃん。  
咲 : ああ。いいじゃんここ。  
真子 : 黄色なんですよね。こっちは基調が。  
藤井 : 前より広いし。  
真子 : 一人じゃないし。  
咲 : 何ととっても家賃格安。はあー。  
真子 : 気に入りました?  
藤井 : いいじゃん。  
咲 : すごいよ 真子。  
真子 : 良かった。  
藤井 : やるじゃん。

[電話]

藤井 : ああ。分かってるって。うん。だからね母さん。確かに3人暮らしなん  
 : だけどさ。こんなに大量にいらないから。越冬隊員じゃあるまいし。  
真子 : 駄目ですよ咲先輩!  
藤井 : あっ ごめん。ちょっとまたかけるね。  
真子 : もうこんなものまで! 何でもかんでも冷凍庫に詰め込まないで  
 : ください。  
咲 : いや。だって冷凍しておけばいつでも食べられるし。  
真子 : これ2年前のじゃないですか!  
咲 : あれ? あっ そうだった? あれ?  
真子 : いいですか? ここはタイムマシンじゃないんです。この中でも時間は



藤井 : うん そう。男とか女とかもう今はいいやって。  
咲 : 分かった。周りにいい男がいないんだ?  
藤井 : いや、仲のいいのならいるんだよ。  
真子 : えっ? その人とは付き合おうと思わないんですか?  
藤井 : 付き合ったよ。3年くらい前に一度。  
真子 : 嘘。  
藤井 : うん。でも2週間で振られた。  
咲 : 嘘。それって付き合ってたの?  
藤井 : たぶん。いやお前とは一生新友でいたいって言われちゃったんだよね。  
咲 : わびしい。楽しいガールズトークのはずなのに。  
真子 : 何か私たちって恋愛砂漠って感じですよ。  
藤井 : まっ 枯れてるよね 確かに。  
真子 : 恋したいな。  
咲 : したいんだけどねえ。  
藤井 : したかったんだけどなあ。  
咲 : ハァー。  
真子 : 「でもしかたがないわ。生きていかなければ」  
藤井 : どうした? 酔った?  
咲 : ひょっとして 演劇部入っちゃった?  
真子 : 「長い 果てしない その日その日をじっと生き通していきましょうね」  
咲 : 出た!  
藤井 : チェーホフの真子。  
真子 : 「運命が私たちに下す試みをじっとこらえていきましょうね」  
 : 「いや」じゃなくて。ちょっと先輩。  
 : 3人の恋愛砂漠説出を願って乾杯。  
咲 : 乾杯。  
藤井 : 乾杯。

(目覚まし時計の音)

藤井 : うーん。まだ30分もある。あっ そうだ。ヤバイ。  
 : あっ。おはよう。  
真子 : あっ。おはようございます。  
藤井 : あれ? 咲は?  
真子 : ああ。まだ寝てるみたいです。  
藤井 : あっ そう。  
 : 仕事行かなくていいのかな?  
真子 : 今日はお休みって言ってましたけど。  
藤井 : へえー。出版社ってフリーダムなんだね。  
真子 : じゃあ 行ってきます。  
藤井 : いってらっしゃい。  
 : いってらっしゃい。  
 : ヤッペー。こんなことしてる場合じゃなかった。あっ。こっちだ。  
  
咲 : フゥー。  
  
優 : 藤井。こっちあとどんぐらいで終わる?  
藤井 : あっ。もう終わる。  
優 : おっ。優秀。  
藤井 : 優秀です。

男性 : あれ? 木崎さん今日お休みだっけ?  
女性 : えー? 珍しいね。

面接官 : それでは小倉さん。弊社を志望した動機を教えてください。  
咲 : はい。私が御社を志望した理由は小学生のときに初めて書いた作文が  
: 亡くなった父に褒められまして。それがきっかけに文章を書くことに  
: 特別な思いを抱くようになりました。  
由美子 : 仕方ないって就職したんだから。お墓参りならすみれと2人で行くから  
: 大丈夫よ。あんたがちゃんと働いてくればお父さんだって喜ぶんだ  
: から。ねえ  
すみれ : そうよ。お休みばっかもらって首になったらお姉ちゃん許さない  
: からね。  
由美子 : あっ。それからね 咲 仕送りなら無理しなくていいんだよ。  
咲き : 無理なんてしてないって。だから有名出版社に就職したんだから。  
: うん。じゃあ お母さんもお姉ちゃんも体気を付けて。また電話する。  
: ハァー。

[TEL]

咲 : はい 小倉です。  
[TEL]男 : 急で悪いんだけど、あした出勤できるかな?  
咲 : ああ。8時からなら入れますけど。  
[TEL]男 : じゃあ 悪いけどお願い。  
咲 : はい。

優 : スタンバイ。ゴー。  
: よっしゃー!  
拓海 : いいぞお二人さん。  
美鈴 : 息ぴったりあの二人。  
拓海 : ああ。お互い相手が何考えてるか言わなくても分かっている感じだね。  
美鈴 : 昔の私たちみたい。  
拓海 : えっ?  
美鈴 : 終わったらまた寄るね。  
拓海 : うん。

藤井 : ただいま。  
真子・咲 : おかえり。  
咲 : ねえ、<sup>8</sup> 合コンすることになったから。  
藤井 : 合コン!?  
咲 : そう。恋愛砂漠を抜け出すには一番手って取り早いでしょ? あさって  
: 予定組んどいたから。  
藤井 : はっ? あさって!?  
真子 : でも私好きな人いるし。  
咲 : 固いこと言わない。人数合わせよ。夕飯代が浮くと思えばいいじゃん。  
藤井 : えー! めんどくさっ。  
咲 : めんどくさいは禁句。みんなで恋愛砂漠を説出するんでしょ?  
藤井 : いや。でもさ着てく服ないんだけど。  
咲 : ごめん。意味分かんないんだけど。  
藤井 : いや。言葉どおりの意味なんだけど。  
咲 : 何?これ。地味な服ばっかですね。

藤井 : しょうがないじゃん。仕事着なんだからさ。  
咲 : えっ? つまり何? 仕事着しか洋服がないってこと?  
 : 藤井先輩!  
藤井 : うん?  
咲 : あなたは間違ってる。  
藤井 : えっ?  
  
咲 : ワンピースにしましょう。  
藤井 : えっ? 私もう何年も着てないんだけどさ。  
咲 : 大丈夫。ワンピースを嫌う男はいません。  
藤井 : いや。私が嫌なの。  
咲 : うーん。膝上がいいかなあ? そうだなあ。もうちょっと。あつ。あつ。  
 : 腕出てんのカワイイんじゃない。  
藤井 : ねえ、<sup>9</sup>咲。ちょっと。ここはちょっと値段。値段がさ。  
咲 : まあ まあ まあ。 ほら、<sup>40</sup>腕出てんのいいね。  
藤井 : えっ?  
咲 : そうだな。  
藤井 : 腕出てる方がカワイイか。  
咲 : うん。  
藤井 : ハァー。  
咲 : 藤井先輩。  
藤井 : うん?  
咲 : 行くよ。  
藤井 : えっ!? 買わないの?  
咲 : ブランドショップで目星を付けたら後は似たようなを探せばいいの。  
 : どうせ背中にブランド名が書いてあるわけじゃないんだし。  
藤井 : なるほど。  
咲 : それにね頭のとっぺんから足の先まで高級ブランドで決めてったら男は  
 : 逆に引くよ。  
藤井 : へえー。そういうもんなんだ。  
咲 : このご時世適度な経済感覚のアピールがより好感度をアップするの。  
藤井 : へえー。  
咲 : だからって貧乏くさくなっちゃ駄目。一点豪華主義でバックはコーチで  
 : いこう。  
藤井 : コーチ。  
咲 : お願いします。  
店員 : あさって返却で2,000円になります。  
咲 : 2,000円になります。  
藤井 : アハッ。  
 : DVD以外のもの初めてレンタルしたわ。  
咲 : 次は靴。  
藤井 : あっ あのさ、<sup>23</sup>私ヒールのあるのはちょっと嫌なんだけどさ。  
咲 : 大丈夫。男のプライドを傷つけずかといって欲情をなえさせない微妙な  
 : 高さのヒールがあるから。行くよ。  
藤井 : はい。  
  
受付 : お疲れさまです。  
真子 : お疲れさまでした。  
真子 : 木崎さん。

木崎 : メールありがとう。この間のお礼今晚どうかな?  
真子 : はい。

咲 : お疲れさま。  
藤井 : もうホント疲れた。ホントに。  
咲 : ハァー。  
藤井 : ねえ、<sup>10</sup> ご飯食べて帰らない?  
咲 : ああ。ごめん。私今日用事あるから。  
藤井 : えっ?  
咲 : じゃあね。  
藤井 : ちよつと<sup>43</sup>。  
咲 : バイバイ。  
藤井 : 腹減ったなあ。

[TEL](呼び出し音)

藤井 : あっ もしもし、<sup>20</sup> 真子? ねえ、<sup>11</sup> 今日夕飯どうする? 私今銀座なん  
: だけど。もし帰りよかったら一緒に食べない?

[TEL]真子 : 私今ちょっと取り込み中で。ごめんなさい。

(通話の切れる音)

藤井 : えっ?

(不通音)

藤井 : やっぱり女の友情ハムより薄い。

真子 : ごめんなさい藤井先輩。  
木崎 : 誰?  
真子 : あっ。友達です。  
木崎 : 女が友達と言った場合の8割は恋人である。  
真子 : いえ。違いますよ! ホントに高校のときの先輩で。  
木崎 : むきになるとその確率は9割に上がる。フフッ。ごめん ごめん。冗談だ  
よ。  
真子 : ああ。冗談。  
木崎 : あっ。家どこだっけ? 送ってくよ。  
真子 : いえ。大丈夫です。一人で帰れますから。  
木崎 : 男が送っていくと言った場合の9割は相手の女の子に気が  
: ある。フフッ。だけど まあ今日は残りの1割の方に甘んじておくよ。  
: すいません<sup>18</sup>。お会計お願いします。

藤井 : ワンピとか着ねえな。乙女? 何だ? それ。  
優 : 何?  
藤井 : うわっ!  
優 : 合コンすんの?  
藤井 : いや。違うって。するわけないじゃん。  
優 : 今日の焼肉お前行くだろ?  
藤井 : えっ? あっ。今日はちよつと早く帰んなきゃいけないてさ。ほら<sup>41</sup>、  
: あの一緒に住んでる女の子たちとちよつと約束があつて。  
優 : 何だ。中締めだってタムさんすげえ張り切ってたのに。  
高橋 : ああっ! 長谷川さん。ちよつといいっすか?  
優 : おう。ちよつといいっすよ。  
藤井 : あっぶねえ。

真子 : まだですか?  
藤井 : 塗るの?  
咲 : そう。  
藤井 : これ?  
咲 : はい。  
藤井 : うーん。ちょっと濃いってもう。  
咲 : いいんだって。こんくらいやっとかないと。  
藤井 : もう いい。もう いい...。  
 : ちょっと、<sup>44</sup>やり過ぎじゃない? これ。  
真子 : そろそろ行かないと遅刻しちゃいますよ。  
藤井 : ちょっと、<sup>45</sup>熱いってもう。  
咲 : 動かないで。綺麗に巻けないでしょ。  
藤井 : ちょっと<sup>46</sup>。  
咲 : 何?  
藤井 : べとべとにしないでよ。  
咲 : 大丈夫だって。  
 : ハァー。お待たせ。あれ? どう?  
真子 : 藤井先輩 綺麗。  
藤井 : 何か。あの。股が。  
  
咲 : お待たせ。遅れちゃってすみません。  
男性 : 咲ちゃん。  
男性 : 待ってたよ。  
男性 : どうぞ どうぞ。ねっ?  
男性 : あっ。どうぞ どうぞ。  
男性 : うん?  
藤井 : あっ。どうも。  
男性 : 咲ちゃん。何飲む?  
咲 : えー。私じゃあジントニック。  
男性 : 真子ちゃんは?  
真子 : 私はカシスオレンジ下さい。  
男性 : おっ。カワイイの飲むね。藤井ちゃんは?  
藤井 : えっ? ああ。取りあえず生で。  
男性 : えっ? 取りあえず生で?  
藤井 : 取りあえず生で。  
男性 : ああ。はい。  
一同 : 乾杯!  
男性 : じゃあ 今日はどこん盛り上がっていこうね。乾杯で。  
一同 : 乾杯。  
男性 : 真子ちゃんも乾杯。  
真子 : 乾杯。  
男性 : 乾杯。藤井ちゃんも乾...。  
藤井 : あっ。うまつ。  
 : 乾杯。  
真子 : はい。  
男性 : ああ。ありがとう。  
咲 : さすがだねえ。  
真子 : 気が利く子が好きだって木崎さんも言ってたんで。

咲 : ふーん。まあ 頑張っ  
男性 : ねえ、<sup>12</sup> みんな仕事は何してんの?  
咲 : あっ。私は出版社で働いています。  
男性たち : へえー。すごいね。  
男性 : 真子ちゃんは?  
真子 : 私は通販会社です。  
男性 : えっ? もしかしてグッドオーダー?  
真子 : はい。  
男性 : 俺ん地のソファグッドオーダーで買ったよ。  
真子 : えっ? ホントですか?  
男性 : ホント。藤井ちゃんはさ何してんの?  
男性 : あっ。スッチーとか?  
藤井 : いや。照明会社です。  
男性 : えっ? えっ? 何?  
藤井 : だからあの照明会社です。  
男性 : ああ。カッコイイじゃん。なあ?  
男性 : うん。  
藤井 : ありがとうございます。  
男性 : 彼氏とかいるの? 藤井ちゃんは。  
藤井 : あっ。  
男性 : いないわけないじゃん。ねえ?  
藤井 : いや。ホントにいないんですね。  
男性 : うっそ! えっ? じゃあ 彼氏いない歴 何年?  
藤井 : えーっと。分かんないです。  
男性 : じゃあ あの、寂しいでしょ? ねえ?  
男性 : あっ。じゃあ 俺 俺なんかどう?  
男性たち : あっ。じゃあ 俺 俺 俺。  
咲 : もう。藤井先輩は理想が高いんだよね?  
藤井 : あっ。ああ。そうだね。  
男性 : えー。

[TEL](メールの着信音)

藤井 : あっ。ちよつとごめんなさい。  
咲 : あっ。逃げた。

藤井 : フフッ。ハァー。何やってんだろ? 私。

咲 : そうなのよ。まあ ちよつと無愛想なんだけどね。  
男性 : いや。まあね。  
咲 : まあ でも素材はいいのよ。藤井先輩は。磨けば光る原石っていうか。  
 : まあ まあ 原石のままなんだけどね。

(男性たちの笑い声)

男性 : あっ。じゃあ 俺 磨いていい?  
咲 : ホント?  
藤井 : ごめん。私ちよつと先帰るわ。  
咲・真子 : えっ? 藤井先輩?  
藤井 : すいません。ちよつとおなか下しちゃって。じゃあ。  
咲 : えっ? あの。  
 : ちよつと<sup>47</sup>! どういうこと? 何? 何か気に入らないことでもあった?  
藤井 : いや。何かさ。何か自分の居場所じゃない気がしてさ。

： ああ。ごめんね。2人は楽しんできて。じゃあ。

優          ： お前何やってんの？  
藤井          ： いや。何もやってないし。  
優          ： サボってんじゃねえよ。  
藤井          ： サボってないよ。しっかりやれ。

真子          ： 今日のごちそうさまでした。  
木崎          ： おいしかったね。  
真子          ： はい。  
木崎          ： この間の残りの1割今日予約してもいい？  
真子          ： えっ？  
木崎          ： 今日は送っていくの俺んちにしたいんだけど。  
真子          ： はい。

田村          ： よし！ もう1軒行こう。もう1軒。  
高橋          ： もう飲み過ぎっすよ。タムさん！もう。  
優          ： いいじゃん もう1軒ぐらい。  
田村          ： だろ？ あっ。じゃあ 俺ここがいい！ ここ。  
高橋          ： 「CLUB Fairy」？  
優          ： 「Fairy」だよ。ちょっとタムさん。ほら、<sup>42</sup>今日は藤井もいんだからさ。  
田村          ： 藤井は気にしないだろ。こいつ女じゃないし。なあ？ いいだろ？  
： 藤井。  
藤井          ： いいですねえ。タムさんの好みの女の子いるかもしないし。  
田村          ： だろ？ 俺さ鼻は利くんだよ。鼻は。  
咲          ： ありがとうございます。また。  
田村          ： どーん。ど真中。  
咲          ： いらっしやいませ。今ならお席ご用意できますよ。何名さまです...。  
藤井          ： あの、<sup>26</sup>私今日疲れたんで先帰ります。楽しんで。  
高橋          ： ああ ああ ああ。もう。  
優          ： ああ ああ。あっ ごめんね。今日はいいや。  
咲          ： あっ いや。でも...。  
優          ： タムさん。行きますよ。  
田村          ： 何で？ いや。だってこの子カワイイじゃん。俺あのだ真ん中だし。  
： 何で？  
優          ： カラオケ行きますか？  
田村          ： うん。カラオケにする。

真子          ： ごめんなさい。私やっぱり。ごめんなさい。

藤井          ： あっ。おかえり。  
真子          ： 藤井先輩。帰ってたんですか？  
藤井          ： うん。あっ。お茶飲む？  
真子          ： あっ いえ。  
藤井          ： あっ そう。  
咲          ： ただいま。  
： 何だ。まだ起きてたんだ。  
真子          ： 咲先輩？  
咲          ： 笑えば？

藤井 : いや。笑うなんてさ。  
咲 : 笑えばいいじゃん。ずっとバカにしてたんでしょ? 私みたいな女の  
: こと。外見だけ着飾って男にこび売ることしか考えてないって。  
真子 : 何?何のこと?  
咲 : 必死で洋服選んで血相変えて化粧して。そりゃ藤井先輩みたいな人から  
: 見れば笑えるよね。  
真子 : ちょっと どうしたんですか?  
咲 : いいよねえ。自分に自信がある人は。今まで どうにかして人から  
: 好かれないなんて思ったことないんでしょ?  
藤井 : そんなことないって。  
咲 : だから化粧もおしゃれも必要ないんだ?だから合コンのとき怒って  
: 帰ったんだ?何もしなくても綺麗な私をこんなバカみたいに  
: 飾りたてって。  
藤井 : 違うよ。そうじゃなくて。  
咲 : 化粧なんかで飾らなくても自分は全然イケてるしおしゃれなんか  
: しなくてもジーンズとシャツだけでカッコイイと思ってるんでしょ?  
藤井 : だから 違うって!  
咲 : 何よ? 恋愛がめんどくさいとか言ってカッコつけちゃってさ。傷つくの  
: が怖いからめんどくさいって逃げてるだけじゃん! そんなんだからいつ  
: までたっても男ができないのよ。  
藤井 : 新友でいたいって言われちゃったらさそうするしかないじゃん。  
咲 : 何だ。結局昔の男引きずってるんだ?  
藤井 : 男取っ換え引っ換えしまくってるくせに。恋愛不感症のあんたに  
: 言われたくない!偉そうなこと言って。結局男と遊ぶ金欲しさに  
: キャバクラなんてやってるくせに。  
真子 : 咲先輩!?  
咲 : いった。  
真子 : ちょっと やめてください!2人とも!  
藤井 : 真子は黙ってて!  
咲 : そうよ! ちゃんと恋愛してるやつはほっといてよ!  
真子 : 何 言ってるんですか!?!先輩なんか私より全然いい方じゃない男が  
: できなくたって恋愛不感症だっていいじゃないですか!私なんか。私  
: なんかバージンなんだから!  
藤井 : えっ?  
咲 : そうなの?  
: あっ。やだ。  
  
咲 : なるほどねえ。  
藤井 : それで帰ってきちゃったんだ。  
真子 : 何か途端に自信なくなっちゃって。  
咲 : いや。私だって自信なんかない。恋愛も就活もまるで駄目。  
藤井 : 私もおんなじ。逃げてばっか。  
咲 : 結局恋愛砂漠でじたばたしてるだけなんだよね。私たち。  
(おなかの鳴る音)  
真子 : おなか減っちゃった。  
咲 : ああ。失恋しても落ち込むんでも腹だけは減るのよね 悲しいことに。  
藤井 : うん。  
咲 : うん?

真子 : うん?  
咲 : 何? 急に。  
真子 : さあ。  
咲 : ああ。  
藤井 : ねえ、<sup>13</sup>ハム食べない?  
真子 : はっ?  
藤井 : 女の友情ハムより厚い。  
 : お待たせ。  
咲 : ちょっと これどうやって食べるのよ?  
藤井 : どうやって まんま食べんだよ。  
真子 : これ どうしましょうね?  
咲 : 切り方おかしいでしょ。

[TEL](メールの着信音)

真子 : 3等分だけ。  
咲 : 3...。切れるかな?  
真子 : 切れる。  
咲 : 真子もきっちり言っというよ こういうとき。  
真子 : ねえ? 私もそう思った。でもせっかく持ってきてくれたから。  
藤井 : 決めた。私もう一度恋をする。  
真子 : えっ?  
咲 : 恋ってあの例の2週間彼氏?  
藤井 : うん。あした会えないかなって。  
真子 : えっ? あしたって藤井先輩誕生日じゃないですか。  
藤井 : うん。会って素直な気持ちぶつけてみる。  
真子 : うーん。私も木崎さんにきちんと話してみます。  
咲 : 私もどっかにいい男がいるって信じてみる。  
藤井 : えっ? 何? それ。  
真子 : 何?  
藤井 : 何かないの? もっと真面目な感じのさ。  
真子 : そう。何か違います。  
咲 : 真面目に言ってますよ。  
藤井 : まあ 食べよう 食べよう。  
真子 : 何? もう。  
咲 : あっ。マヨネーズ。

[TEL](メールの着信音)

真子 : 誕生日に呼び出すからにはきっと何かありますよ。  
咲 : もし何かあったら帰ってこなくてもいいんだからね。  
藤井 : どうかな?  
咲 : ふーん。似合ってるね。  
真子 : うん。似合ってる。  
藤井 : ありがと。  
咲 : この間はレンタルだったから。はい。誕生日おめでとう。  
藤井 : ありがとう。  
真子 : 恋愛成就のお守り。効きますよ。  
藤井 : おおー!  
咲 : どうかなあ?  
藤井 : おい!<sup>36</sup> ありがとう。

咲 : ねえ、<sup>14</sup> 今日それ使ってみない?  
藤井 : だね。  
真子 : うん。  
咲 : 入る?  
藤井 : 入るよ。  
咲 : 何かおっきいもんな。  
藤井 : 確かに。  
真子 : 遅刻しちやいますよ。  
藤井 : ヤバイ。行こう。

咲 : あっ。ああ もう。  
: あっ。あっ。えっ?  
: ああ。ヤバイ。  
拓海 : あの、<sup>27</sup> 駅までですか?  
咲 : あっ はい。  
拓海 : よかったら一緒にどうぞ。  
咲 : あっ いや。でも...  
拓海 : バス来ないんでしょう? どうぞ。

[TEL]  
咲 : もしもし、<sup>21</sup> あっ はい。先日面接試験を受けさせていただきました。  
: ホントですか!? ありがとうございます!はい。はい。2次試...  
: 2次の筆記試験の。はい。はい。あっ。あっ。あっ。はい。

拓海 : はい。  
咲 : あっ。すいません。  
: あっ どうぞ。すいません。18日の14時から。はい。連絡  
: ありがとうございます!はい。  
: うわー。やった。マジで? フフフ。あっ すいません。

拓海 : よかったですね。おめでとう。  
咲 : ありがとうございます。ハァー。初めてなんです。うわー。

藤井 : よっ <sup>48</sup>。  
優 : おう。  
藤井 : 何?  
優 : あっ いや。何ていうかさ。いつもとその雰囲気違うから。  
藤井 : フッ。そうか?  
優 : うん。

咲 : あっ。お金。  
拓海 : 大丈夫。  
咲 : すいません。あっ あの、<sup>28</sup> こんなところまでどうもありがとう。  
拓海 : 頑張ってください。  
咲 : はい。  
: あっ。「SHIRAISHI」? シライシ。

男性 : いや。例えばですよ。  
木崎 : うん。  
男性 : ナンパした女が処女だったらちょっと引きませんか?  
木崎 : 処女か。やっぱり処女は重いよな。  
男性 : ですよ?

木崎 : うん。  
男性 : いや。俺当たっちゃって。  
木崎 : えっ?  
男性 : マジっす。

優 : 藤井。  
藤井 : うん?  
優 : 実は俺。  
藤井 : うん。  
優 : 俺結婚しようと思うんだ。  
藤井 : はっ?  
ひかり : 遅れてごめんなさい。

: こんにちは。  
: 遅くなってごめんね。

優 : ううん。  
ひかり : ありがと。

藤井 : ひ... ひかりちゃん。ひかりちゃんと結婚?

優 : うん。新友のお前に最初に報告したくてさ。

ひかり : 私が休みのたんびにアメリカに追っ掛けてったんです。優ちゃんのこと  
: ずっと好きだったから。

優 : 追っ掛けられちゃいました。

ひかり : もう。

一同 : 「ハッピーバースデーウユウ」「ハッピーバースデーウユウ」  
: 「ハッピーバースデー ディア アイちゃん」「ハッピーバースデー  
: ウユウ」

(拍手・歓声)

(一同) : おめでとう。

優 : おい、<sup>37</sup>大丈夫か?

藤井 : あっ うん。あの、<sup>30</sup>おめでとう。

優 : おう。ありがとう。

ひかり : ありがとうございます。

優 : よし。じゃあ 店変えて3人で昼飯でも行こっか。

ひかり : うん。

藤井 : あっ あの、<sup>30</sup>私ちょっと。

優 : えっ?

藤井 : あの。この後友達の誕生日会があるからさ。ちょっとその準備で。

優 : マジで? そっか。

ひかり : だから今日感じが違うんですね。すごいすてきです。

優 : あっ。俺も思った。

藤井 : でしょ? 綺麗でしょ?

優 : はあ?

藤井 : はっ? じゃあ 行こっかな。

優 : おう。

: あっ。いいよ。何か忙しい日に悪かったな。

藤井 : ああ。ううん。全然。ありがとう。

: あの、<sup>31</sup>ホントおめでとうね。じゃあ。